

交流のひろば

情報をお寄せください。市役所広報広聴課 890-6642へ。

にぎわいづくりのために



「とんカツうどん」で受賞
川鍋 正規さん(48)
西片貝五丁目

昨年、NHKきょうの料理大賞関東甲信越ブロック大会で、新ふるさとの料理部門・特別賞を受賞。十二月十八日に放映された総合テレビ番組で、受賞作「とんカツうどん」を披露した。「市街地活性化研究会で中心

街のにぎわいづくりのために何か名物料理を創作しようと、みんなで考えたメニューです。小麦と豚肉は本県の名産。意外な取り合わせかもしれませんが、うどんもトンカツもおいしいのだから、誰にも好まれると思うたんですよ」

現在、このメニューは千代田町などの飲食店で食べることができる。それぞれの店が工夫をし、あっさりとしたものやボリュームのあるものなど、独自性を出している。

「このうどんが中心市街地の話題づくりになって、盛り上がりがどんどん広がればと思って

います。景気の低迷を嘆いていても仕方ないのだから、みんなで元気良く、できることから取り組みを進めることが大切。そうした前向きな気持ちで工夫を凝らせば、新たなにぎわいが生まれるのではないだろうか」

市内の建設コンサルタント会社で代表取締役を務める。もともと食べることが好きで、うどんやそばを自分で打つという。「時代の流れで街も人も変わります。生き生きと暮らせる街に住みたいのなら、自分たちの手でつくればいいんです」

バイタリティーあふれる口調で、明るく語ってくれた。



ゴミ処理の現状 見学会で理解

古市町一丁目・鈴木久美子

妹と一緒に清掃工場見学会に参加しました。バスで市内四方面の施設をぐるりと一周。勉強になるミニトリップでした。大渡町一丁目のペットボトル中間処理施設では、リサイクルのため、手作業でペットボトル

とそれ以外のプラスチックボトルに分別し、一つ一つふたを取っているのです。中を洗い、ふたを外してゴミに出すのは最低限、市民の務めだと思いました。また、荻窪町の不燃物処理工場では、プラスチックを分け、圧縮し、再商品化するシステムができていました。燃えないゴミの日に出る多くのプラスチック容器、全部埋め立てるのかと心配していましたが、少しほっとしました。それでも、残ってしまうゴミは最終処分場へ埋め立てることに。昨年末に完成した新最終処分場も十五年でいっぱいになるそうです。ゴミ問題は終わりのない環境課題です。

まちのNews のニュース



下佐鳥町

元旦マラソンで 熱戦を展開



一月一日、下佐鳥町公民館を発着点に、同町の元旦マラソン大会が行われました。十五人の小学生が、約一・五キロのコースに挑戦。午前九時三十分の一斉にスタートしました。子どもたちは冷たい風をもっともしい力走で、先導の自転車が追い越されそうな勢い。父母などの声援を受け、熱戦を展開しました。選手が次々とゴールするころには風もやみ、暖かな日差しが疲れた体を包みました。

同町子ども会育成会会長の星野利夫さんは「元旦は、大みそかの夜更かして寝坊しがちです。早起きして汗を流すほつが気持ちいいですね」と語っていました。